会議議事録

事業名	令和6年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業 (2)教職員の資質能力向上の推進① 効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進
代表校	一般社団法人全国専門学校教育研究会

会議名	第5回授業改善サポーター育成講座開発委員会
開催日時	令和7年1月20日(月) 10:00~12:00
場所	YIC 学院
出席者	事業責任者：岡村 慎一 <u>計1名</u> 委員：小田 政江、合田 美子、足立 隆、猪俣 昇、 半田 純子、吉橋 大樹 <u>計6名</u> 請負業者：飯塚 正成 <u>計1名</u> <u>合計8名</u>
議題等	①今年度のプログラムと成果物の振り返り ①令和5年度事業の結果を受け、委員会にて再度内容を検討し、講座を改善する。検討内容は、受講対象者の緻密化、学習シナリオ、時間、環境、各種ツール、教材、評価等とする。 ②講座改善の情報収集および各校における実施事例等を収集するために、令和5年度に暫定版講座を受講した15名を対象として、アンケート調査を実施する。 ③授業改善サポーター養成講座に必要な専門学校教員を対象としたビデオを開発する。 ※ビデオの構成は、ID、シラバス・コマシラバスの書き方および事前課題解説とし、180分程度の開発を想定する。 ※LMSは本事業にて開発を予定しているシステムを利用する。ただしシステムは間に合わなかったため熊本大学から貸与いただく ④本年度開発する授業改善サポーター養成講座を検証する。検証講座は、福岡にて対面で行う3時間程度の講座を1回。およびオンラインで3時間程度のリフレクションを2回程度実施する。 以下、成果物 ①暫定版授業改善サポーター養成講座 2024年版 カリキュラム・シラバス・教材等 ②教材ビデオ 3時間程度 ③講座事後に実施されるアンケートやリフレクションを取りまとめた報告書 →①③は細野より共有あり(1月20日(月)8時58分のSlack

投稿)

→②は現在は熊本大学 LMS に掲載しているが、指定の提出形態に合わせたデータでの提供が可能。 : 成果報告の動画は Youtube に限定公開し、そのリンクを全専研 HP に掲載するので OK (証拠が乗っていることが大事)。 : どの Youtube アカウントで誰がアップロードをするか? は要確認。 : 成果物 (教材ビデオ含む) は全専研 HP にアップロードする。

: 成果物の利用許諾と用途は受講生に確認する。 : 受講生の成果物の公開の仕方や基準も決める必要がある。 : 今年度は受講生の成果物を投稿する旨を記載していないため掲載なしでも OK だが、一部抜粋して掲載するのも可能。

: 成果物で研修の良し悪しを図ってきたので、来年度は成果物の掲載許諾を取ると良い。

: 2月18日は、成果物の再検討&次年度の改善内容を検討する。

: 今年度は「実績報告書」を印刷したものが必要。 →「講座事後に実施されたリフレクション取りまとめた情報」のタイトルを「実績報告書」に変更した上で、以下項目を含める。 ①カリキュラム・シラバス ②研修概要 (対象、内容、プログラムのスケジュール、実施要項) ③昨年度の15名の参加者に向けたアンケートの結果報告 (コメントを抜粋して前年度の改善点がまとまったもので OK。A4 で2~3枚) ④インタビュー結果 ⑤今年度の結果 (何名参加、アンケート結果)

③次年度に検討すべきこと

→継続性の担保のための施策を検討する必要がある : 講師養成 (合田先生にお願いするか? 学内で講師養成を実施するか?) : 受講料 : 講座対象者 : 教材メンテナンス : 受講生同士のコミュニティ運営 (誰かが管理しないと交流が止まってしまう。議論を進めるための問いかけを仕込む必要がある。)

: 講師養成は、熊本大学とコラボするのはどうか?

→講師研修は熊本大学、コミュニティ運営は全専研で対応する。役割分担をするのはどうか?

: (熊本大学には情報共有やコミュニティ運営がしやすい LMS はない)

: 熊本大学では、専門学校向けコンテンツにカスタマイズした講師派遣 (拠点事業) をできる (受講料は3万円/1人)。

: 拠点授業はいつなくなるか? 分からない。継続性を担保しなくてはならない。受講料の3万円が妥当なのか? は全専研が判断する必要がある

	<p>ある。 : 「全専研と熊大の教育連携」とするのも可能 (意思決定者は学長&部門長。時期を選ばなくても OK) 。</p> <p>→熊本大学と連携したというエピソードがあれば、全専研の会員校に声をかけやすい&形として残りやすい。</p> <p>: ウィネットの LMS は新しいものに切り替え中。データベース機能、ディスカッション、プッシュ通知が可能な LMS にアップデートする予定。 →コミュニティのチャットの公開範囲の設定もできる。課題提供 bot は夏頃に搭載予定。 : 1 期ごとにコミュニティ/ データベースを作る : ID 検定を受けた人に、コミュニティを招待する</p> <p>: 期ごとにリーダーを作るのが良い。コミュニティを活性化させる人を任命する。コミュニティ活性化の工夫をしたい。 : コミュニティ活性化のためのリーダー制度は学校に対して合意を取らないと難しいのでは? : 上司が本講座の内容を把握していない実情があった。事前に講座趣旨の説明をしないと集まらないのでは? 研修以外の時間を他校に充てるメリットが分からない、という声があるかもしれない。 →本講座が有益であることを説明できるようになる必要がある。合田の手元にある受講生の成果物を公開する必要があるかもしれない。</p> <p>: 問題に直面した際に相談できる場所があれば良い。研修と一緒に参加した人たちの関係性が続くと良い。 : 上下のコミュニケーションがあると良いのかもしれないが、一旦は同期同士のコミュニティにすると良い。</p> <p>: 継続的に Zoom で集まる、などの事務局側の仕掛けを作ると良い。</p> <p>④次回 WG について</p> <p>: 2 月 18 日 (火) @麻生塾 (福岡)</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 5 回 授業改善サポーター養成講座開発委員会 : 次第 ・ 授業改善サポーター養成講座_シラバス 添付 ・ 授業改善サポーター養成講座_研修 1 教材 添付 ・ 授業改善サポーター養成講座_研修 2 教材 添付 ・ 授業改善サポーター養成講座_研修 3 教材 添付 ・ 講座事後に実施されたリフレクション取りまとめた情報